

# 4 万人が受検、高校・大学で増加 = 平成 28 年度第 2 回日本語検定 =



日本語の総合的な能力を測る「日本語検定」（略称・語検）の平成 28 年度第 2 回（通算第 20 回）検定が、11 月 11 日（金）と 12 日（土）に行われました。国内は 47 都道府県 92 カ所の一般会場と 786 カ所の準会場、海外はアメリカ（グアム、ニューヨークの 2 カ所）、ドイツ（フランクフルト）、アイルランド（ダブリン）、オーストラリア（シドニー）、タイ（ナコンシタマラート）、韓国（ソウル）の 6 カ国 7 カ所で実施され、前回（4 万 3 0 4 人）から微増の 4 万 7 5 9 人が受検しました。

「語検」は、敬語や文法、語彙（ごい）、表記など 6 つの領域にわたり、日本語を正しく使うことができるか、一人ひとりの能力を測るものです。1 級から 7 級まで、小学生から社会人まで幅広い年齢層を対象としています。検定結果は、12 月上旬に語検ホームページで合否速報を発表し、同中旬には個人カルテと認定証を発送します。

今回の受検者数は、1 級（社会人上級程度）7 9 2 人、2 級（大学卒業程度～社会人中級程度）4 2 3 1 人、3 級（高校卒業程度～社会人基礎程度）1 万 3 2 1 5 人、4 級（中学校卒業程度）1 万 1 2 3 2 人、5 級（小学校卒業程度）6 4 4 5 人、6 級（小学校 4 年修了程度）3 3 8 5 人、7 級（小学校 2 年修了程度）1 4 5 9 人で、前回に比べて 2 級が 3 割減った半面、4 級が 3 割、5 級が 4 割いずれも増えたのが特徴です。

語検事務局は、詳細な分析はこれからと前置きしたうえで、「新規を含め高校や大学の団体受検が増えている。（受検級は）3 級から 4 級に該当する」としており、大学への進学などを目指した高校や就職活動を見据えた大学での団体受検が、安定した受検者数の推移につながっているものと思われます。最年長者は福島県郡山市の 92 歳の女性、最年少者は兵庫県宝塚市の幼稚園に通う 5 歳の男の子で、いずれも 7 級を受検しました。

## ◆ 7 4 4 人が受検＝東京 2 3 区会場

東京 2 3 区の一般会場となった渋谷区桜丘町の日本経済大学東京渋谷キャンパスでは、7 4 4 人が 1 級から 7 級に挑戦しました。

前日までの寒さが緩み小春日和となったものの、コートやマフラーなど防寒具に身を包んだ受検者が目立ちました。早い人は検定が始まる 1 時間前に到着し、受検会場となった教室の扉が開くと、入り口に掲示された受検番号を確認しながら、次々に入場していました。教室の大きさに合わせて

10～80 人ずつ、級ごとに分けられた会場では、15 分前に監督者から注意事項の説明があり、受検者は緊張した面持ちで耳を傾けていました。



次ページへ 

## ◆就職に向け日本語力を高める

2級の会場で問題集に目を通していた世田谷区在住の男性（22）は商学部で籍を置く大学3年生。企業経営や人材育成のコンサルタントを目指し、商業簿記やファイナンシャルプランナー、漢字検定のいずれも2級を取得済みだが、就職活動で「敬語がしゃべれないとまずい」と考えて語検に初挑戦。「人とかかわる仕事にも役立つはず」と社会人としての活躍も見据え、日本語力の向上に意欲をみせていました。

杉並区在住の大学3年の女性（21）は出版社など活字メディアへの就職を希望。外国学部で英語を専攻しているが、メディア系学科の先生に「就活に役立つ」と勧められ、初めて語検（2級）にチャレンジ。周りには帰国子女が多いため、日本語の難しさを肌で感じ、「自分もレベルアップしなければと思った」ことも受検を後押ししたようです。



## ◆正しい日本語、仕事でも

「日本語の整理をするため」に初めて語検（2級）に臨んだのは荒川区在住の男性（62）。編集のプロとして校閲などの仕事に携わってきたが、時代とともにパソコンでの作業が主流に。数年前からはウェブ系の編集を手掛け、漢字が書けなくなるなど自らの日本語力に危機感を覚えたのが受検のきっかけ。

4級の会場となった教室で「間違った日本語を使い、利用者（顧客）に迷惑を掛けてしまった」と受検の動機を明かしてくれたのは千代田区在住の女性（21）。高卒で介護の仕事に就いたものの、日誌をつけるときに的確な表現ができずにトラブルを起こし、「悔しい思いをした」。一念発起して医療系の予備校に通い、語検にも挑戦。語検3級を取得すれば、秘書検定2級と合わせて「秘書実務士の申請資格が得られるのも（語検の）魅力」と、レベルアップへの決意を固めていました。

## ◆丁寧できれいな言葉を

6級の教室には子どもの姿が目立ちました。両親の丁寧できれいな言葉と違って、学校で汚い言葉が飛び交っているのが気になっていたという北区在住の小学5年の女の子（11）。語検の広告を新聞で見「自分の日本語は正しいのか、確かめてみたい」と考え、初めて臨んだ語検。将来の夢を尋ねると、背筋をピンと伸ばして「小説家と考古学者になりたい」としっかりした口調で答えてくれました。



（時事通信社編集委員 升谷昇）

次回  
予定



文部科学省後援事業 **日本語検定**

平成**29**年度 第**1**回（通算第21回）

一般会場 **6/10**（土） 準会場 **6/9**（金）・**6/10**（土）

申込期間 **3/1**（水）～ **5/12**（金）